

①妖怪「アマビエ」のハンコ(はんのひでし。24ページ参照)②「はんこ・書面を抜本削減」答申を受け取る安倍首相③給付金の受け取りに際し捺印する女性④日本で一番有名なハンコ「金印」⑤織田信長の印が押された朱印状(熊本県立美術館提供)⑥コロナ禍で注目された「おててポン」(シャチハタ 500円+税)⑦封蝋にもハンコを使用する



## 唯一の業界誌編集長が その必要性に太鼓判! 何故、いまハンコなのか

『在宅だけど…ハンコのため出社 日本独特の文化壁 申請書に上司印、契約書に会社印』(毎日新聞4月10日) 『ハンコが必要』、やむなく出社? 行政手続き見直しへ/印鑑廃止宣言の会社も(朝日新聞4月24日) コロナ禍でテレワークが進むなか相次いだのが、こうした「ハンコ出社」報道だ。テレワークの阻害要因として槍玉に挙げられ、「脱・ハンコ」の動きが急速に強まった。

突然、「悪者」にされた当事者側はこうした風潮に真っ向から反論。全国の有力印章店が加盟する団体、全国印章業経営者協会は「街頭インタビューの少数意見を根拠としており、極めて局部的で公平性に欠く報道」と声明を発表した。〈紙による文書の決済、認証を得るためにわざわざ出勤しなければならなかったテレワークできない〉というのが一連の報道の本質的内容です。にも関わらずハンコだけを元凶のように

報じるのは、視聴者受けするキャッチーなネタにしたいため、ハンコをスケープゴートにしていると言わざるを得ません」

業界専門誌『月刊現代印章』編集長・真子茂氏(上写真)も、「テレワークの阻害要因はハンコ以外が大きい」と語る。

「経団連が4月に会員企業を対象に行なった調査結果では、テレワークの阻害要因は、社内の情報システムに社外からアクセスできない、セキュリティ上、顧客情報や開発情報を家に持って帰れないといった、従業員の業務の性質(情報管理上の懸念も含む)が約75%と最も大きな要因でした。この中にハンコという文字は1回も出てきません。同時期に東京商工会議所でも同様の調査を行なっていますが、ほぼ同じ結果です」ハンコは「新しい生活様式」の敵か否か。まさに世論を二分する議論となっているが、その役割がかつてないほど注目されている

ことは間違いない。

そもそもハンコはどのようにして生まれたのか。

「始まりは紀元前3000年頃のメソポタミア文明まで遡ります。当時は権威の象徴や封蝋などで使われていました。日本でハンコを広めたのは織田信長だとされています。南蛮貿易の際、ポルトガル人がハンコを使うのに目を付けた信長は、ポルトガルからハンコ職人を呼び日本の職人を育成。優れた者に細かい字を彫ることから「細字」という苗字を与えました。これが今のハンコ屋さんのルーツだと言われています」(真子氏。編集部注・諸説あります)

その後日本では、ハンコは書類の内容を確認・承諾した「意思の担保」の役割を担うことになる。紙文書では署名、拇印が世界共通だが、日本ではそこに独自にハンコが加わったわけだ。真子氏はその観点から、現代においても、人々の権利を守るためにハンコは必要だと語る。

「ハンコをやめてすべてをオンラインにする動きがありますが、それでは弊害があります。例えばパソコンやスマホが使えない高齢者や、ネット環境が整っていない過疎地の人はどうなるのか。最低限、紙と郵便とハンコという日本のインフラは守っていかなければなりません。もちろん古臭いとか面倒臭いといったイメージがあるのは業界にも原因があるので、業界も時代に合わせて変わる必要があると思っています」(同前)実は「コロナ禍で売れたハンコ」もある。手洗い練習スタンプ「おててポン」だ(上写真)。子供の手洗いを奨励するもので、前年同月の約10倍の出荷量となる人気となった。また、テレワークにおける捺印方法として「電子印鑑」を耳にする機会も増えた。ハンコ時代に順応し始めている。良くも悪くも注目を集めるハンコ。それだけ我々の生活に根差しているからこそである。



# 「欲しくなる」「お役立ち」最先端ハンコ

## にがえ印鑑 (TOSYO 4980円+税)



送った写真やイラストを基にオリジナルの似顔絵ハンコを作成してくれる。製作期間は2〜3か月ほど。犬や猫といったペットも可能で、東京中央郵便局にてパッケージを購入し注文できる

## 鳴子こけし こけしはんこ (はせがわ) パペッタ (サンビー 1480円+税)



薩摩本柘植を使用し、宮城の伝統こけし職人が1点1点手書き・手仕上げで作成。インテリアとして部屋や玄関に飾れる【右下】シリコン製の動物型ハンコケース。顔の部分がキャップになっており、中には朱肉が内蔵。机に飾って必要な時にそのまま押せる

## お着替えできるポン (シヤチハタ 600円+税)



子どもが正しい向きで着替えられるよう衣服に押すスタンプ。衣服の内側にスタンプを押し、「どうぶつと目が合ったら正しい向き」と分かりやすく覚えることで、ひとりでの楽しい着替えをサポート

## おなまえスタンプ おむつポン (シヤチハタ 1580円+税)



乳幼児を保育所に預ける際、おむつに記名が必要な場合がある。そんなときに便利なスタンプ。速乾性に優れた油性インキで名前書きの時間を大幅に短縮してくれると人気だ。おむつ以外にも紙、プラスチック、金属、布などにも使用可能

## カーボン印鑑 (フォーユー)、チタン印材 (日本ワード) 屋久杉印材 (永江印材)、マンモス印材



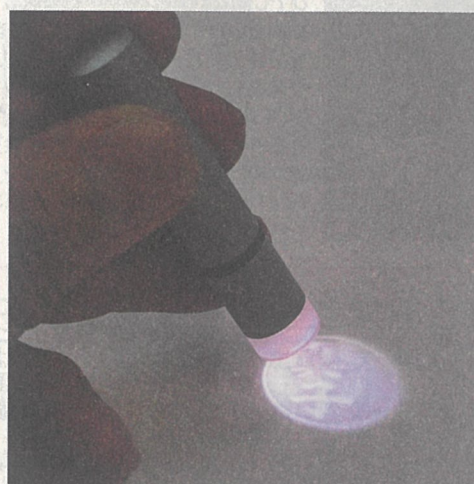
①カーボンはスポーツカーや航空機、ゴルフクラブなどに用いられており、それぞれの分野の愛好家を中心に人気が高い②チタンやアルミなどの金属製のハンコは落としても欠けにくく、摩耗にも強い③世界自然遺産である屋久島の樹齢1000年以上の屋久杉印材。独特の木目と光沢、色合いが特徴④シベリアなどの永久凍土から発掘したマンモスの牙で作られている。古代の浪漫が感じられる逸品 ※それぞれ大きさ等で価格が変動

## LooKy (ウイズアス 1980円〜)



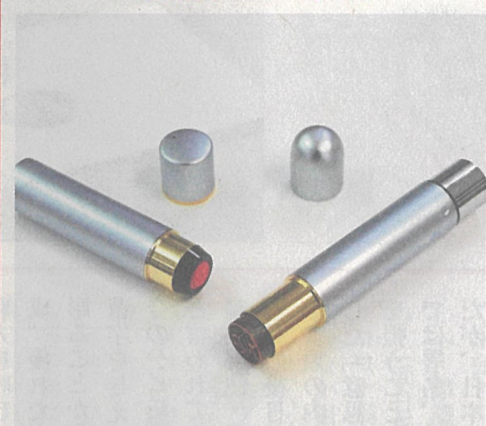
強度と透明度に優れたアクリル樹脂製で、天窓から印面が見える初の商品。上から印影を見ながら押せるので、位置と向きなど押すときの失敗がない

## プロジェクタースタンプ (天野製作所 1万2960円)



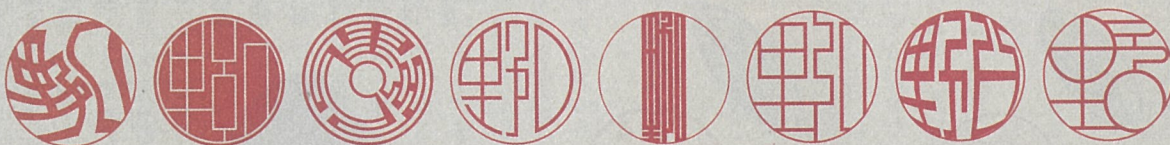
暗い場所でも押しやすいのはもちろんのこと、明るい場所でも内蔵されたLEDの光によって印影が投影され、枠からはみ出すことなくまっすぐ押すことができると好評だ

## タニエバー-GTK (谷川商事 2800円+税)



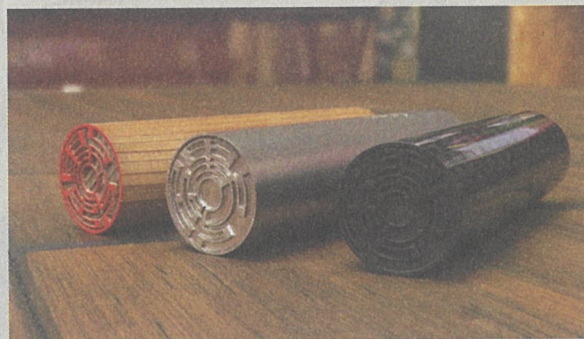
浸透ネーム印、黒檀認印、浸透訂正印の3つの機能が1本にまとまった便利ハンコ。コンパクトで、これ1本あればハンコが必要なシーンはほぼ乗り切れる。浸透ネーム印、黒檀認印の2つの機能が1本にまとまったバージョンもある

## デザインハンコ——これ、すべて「野口」のハンコです!



独創的なデザインのハンコも需要が高まっている。多種多様なハンコを手がける会社「Sirusi」の立ち上げのきっかけとなったのは、03年に受けた個性的なデザインのハンコの注文だった。印章文字を基本に、デザイナーが一字一文字オリジナルの図案をおこし作り上げるため、同じ苗字であっても同じ印影は存在しない。デザインから一緒に作り上げることで、愛着のある1本に仕上がる。

印グライダーシリーズ (Sirusi 9000円〜)



現在はバラエティ豊かな印鑑が多数流通している。押しやすさに特化したもの、デザイン性を重視したもの……各社が工夫を凝らし、日々進化を遂げている。使われている材質も様々だ。ハンコといえば一昔前は「象牙」のイメージだったが、象牙は1989年以降、ワシントン条約により国際取引が禁止されている。日本でも「種の保存法」により取り締まりが行なわれている。現在国内で流通しているのは、89年以前に輸入され政府に登録されているもののみのみ。登録された生牙・印材には認定シールが添付されており、売買も政府への登録と販売管理が義務付けられるなどしているが、国内取引が禁止されていないことで、諸外国から批判を受けている。そんな象牙にかわり、現在はチタンやカーボン、中にはマンモスの牙といった素材も使われている。好みに応じて様々な印鑑を集めるのも面白い。

※表示のない限り価格は税込。選択する素材等によって価格が変わることがあります